

第 3 章

学習に関する意識調査

I 小学校における学習に関する意識調査の結果について

1 調査の概要

本意識調査は、次の三つの事項について児童に質問した。

(1) 各教科（国語・社会・算数・理科）の授業について

・各教科の授業の楽しさの程度について ・各教科の内容の理解の程度について

(2) 各教科の内容が理解できるための要因について

上記(1)で、「授業がよく分かる」、又は「どちらかといえば分かる」と答えた児童を対象に質問した。

・学習方法に関して ・教員の姿勢に関して ・学習者の姿勢に関して ・その他

(3) 生活や行動等について

・読書の時間量 ・生活面における自立の程度 ・社会貢献への意識や行動 など

2 調査結果の概要

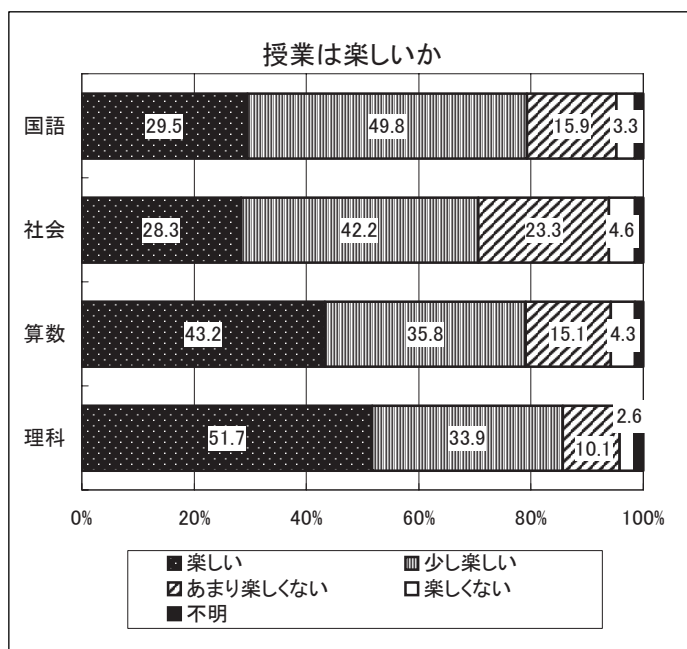
(1) 各教科の授業について

各教科に関して「授業は楽しいか」について質問した。

授業が「楽しい」「少し楽しい」と答えた児童の割合は、国語が79.3%、社会が70.5%、算数が79.0%、理科が85.6%である。その中で、「楽しい」と答えた児童の割合は、国語が29.5%、社会が28.3%、算数が43.2%、理科が51.7%である。「少し楽しい」と答えた児童の割合は、国語が49.8%、社会が42.2%、算数が35.8%、理科が33.9%である。

また、「あまり楽しくない」と答えた児童の割合は、国語が15.9%、社会が23.3%、算数が15.1%、理科が10.1%である。

下の表は、教科ごとにそれぞれの選択肢を選んだ児童が、各教科の調査においてどれだけ正しく答えることができたかを示したものである。各教科とも「楽しい」「少し楽しい」と答えた児童の平均正答率は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童の平均正答率よりも高く、昨年度と同様の傾向が見られる。その差については、国語が6.8ポイント、社会が5.8ポイント、算数が11.3ポイント、理科が6.5ポイントである。特に算数は、他の教科よりやや差が大きくなっている。



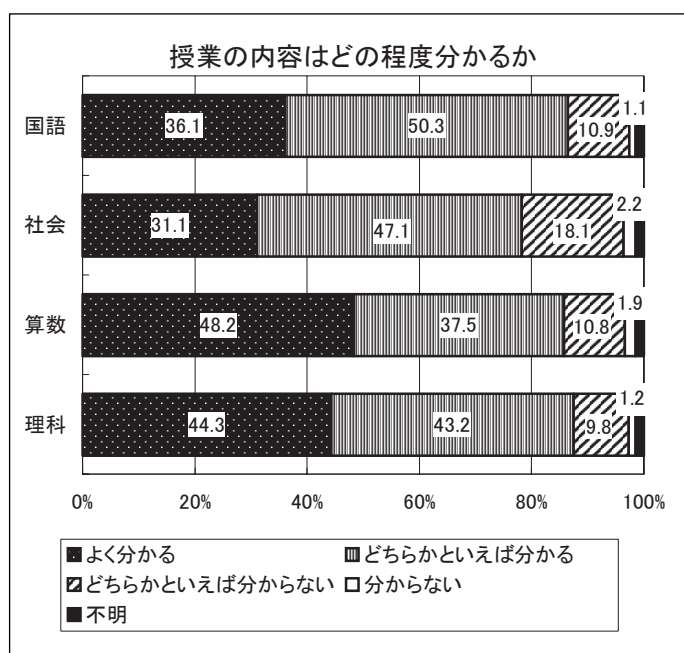
授業は？	平均正答率（％）							
	国語		社会		算数		理科	
楽しい	76.8	73.3	86.1	83.7	82.5	79.2	76.4	74.7
少し楽しい	71.3		82.1		75.3		72.1	
あまり楽しくない	67.2	66.5	78.7	77.9	69.3	67.9	68.7	68.2
楽しくない	63.3		74.0		63.0		66.5	

次に、各教科に関して「授業の内容はどの程度分かるか」について質問した。

「よく分かる」及び「どちらかといえば分かる」と答えた児童の割合は、国語が86.4%、社会が78.2%、算数85.7%、理科が87.5%となっている。

その中で、「よく分かる」と答えた児童の割合は、算数が48.2%と四教科の中で最も高く、理科が44.3%、国語が36.1%、社会が31.1%と続いており、昨年度と同様の傾向が見られる。

また、「どちらかといえば分からない」と答えた児童の割合は、社会が18.1%と他の教科よりも高くなっている。



下の表は、教科ごとにそれぞれの選択肢を選んだ児童が、各教科の学力定着状況調査においてどれだけ正しく答えることができたかを示したものである。「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えたグループの平均正答率が、「どちらかといえば分からない」「ほとんど分からない」と答えたグループの平均

正答率よりも高く、昨年と同様の傾向が見られる。その差については、国語が16.3ポイント、社会が10.6ポイント、算数が21.7ポイント、理科が

授業の内容は？	平均正答率（％）							
	国語		社会		算数		理科	
よく分かる	79.6	74.0	88.0	84.2	85.0	79.8	79.1	75.2
どちらかといえば分かる	69.9		81.7		73.1		71.3	
どちらかといえば分からない	58.8	57.7	74.8	73.6	60.2	58.1	63.6	62.8
ほとんど分からない	46.8		64.0		46.5		55.6	

12.4ポイントである。特に算数は、他の教科よりやや差が大きくなっている。

(2) 授業の内容が分かる要因について

下の表は、児童が分かる要因として教科ごとに選んだ事柄の中で、10%を超えたものを示したものである。(複数回答、数字は回答率)

国語	国語の授業での先生の教え方がいねいだから	38.5%
	自分で調べたり、考えたりする授業が多いから	36.6%
	自分は読書が好きだから	34.7%
	出された宿題をきちんとやっているから	33.2%
	自由に考えを発表し合い、考えを深める授業が多いから	32.5%
	塾や家庭で教えてもらっているから	29.7%
	自分で課題を選んで学習する授業があるから	20.0%
	授業中に繰り返し学習する時間があるから	17.1%
	分からないときには自分で調べるから	16.1%
分からないときには学校の先生に聞くから	16.1%	

社会	世の中のできごとを知ることが好きだから	39.6%
	社会の授業での先生の教え方がいねいだから	33.2%
	実際に体験する授業が多いから	30.6%
	調べたいことを自分で決めて調べる授業が多いから	29.2%
	出された宿題をきちんとやっているから	22.0%
	自由に考えを発表し合い、考えを深める授業が多いから	22.0%
	塾や家庭で教えてもらっているから	20.8%
	分からないときには自分で調べるから	15.3%
	授業中に繰り返し学習する時間があるから	13.4%
分からないときには学校の先生に聞くから	12.8%	

算数	算数の問題にはいろいろな解き方があるから	56.4%
	コースに分かれた少人数の学習があるから	48.6%
	自分で解き方を考え、進める授業が多いから	43.9%
	算数の授業での先生の教え方がていねいだから	37.2%
	ものを使ったり実際に体験したりする授業が多いから	34.6%
	塾や家庭で教えてもらっているから	34.3%
	出された宿題をきちんとやっているから	31.6%
	自由に考えを発表し合い、考えを深める授業が多いから	24.7%
	授業中に繰り返し学習する時間があるから	22.8%
	分からないときには学校の先生に聞くから	18.0%
	分からないときには自分で調べるから	11.6%

理科	観察したり実験したりする授業が多いから	76.7%
	自分で予想し、それを確かめる授業が多いから	60.9%
	観察や実験をした後に、しっかりまとめをする授業が多いから	58.2%
	理科の授業での先生の教え方がていねいだから	34.9%
	出された宿題をきちんとやっているから	20.9%
	塾や家庭で教えてもらっているから	20.7%
	自由に考えを発表し合い、考えを深める授業が多いから	19.7%
	分からないときには学校の先生に聞くから	13.4%
	授業中に繰り返し学習する時間があるから	13.1%
	分からないときには自分で調べるから	12.3%

どの教科においても比較的多く選ばれている要因として、以下のものが挙げられる。これらは、昨年度と同様の傾向を示すものである。

- 学習方法等に関するもの…「自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業」「自由に考えを発表し合い、考えを深める授業」
- 児童の学習姿勢に関するもの…「自分で課題を選んで学習する」「調べたいことを決めて調べる」「解き方を考え、進める」「予想して確かめる」「宿題をきちんとやる」「分からないときに自分で調べる」「分からないときに先生に聞く」
- 教師の姿勢に関するもの…「先生の教え方がていねい」

また、教科別に見ると、次のような教科の特性に関するものが要因として多く選ばれている。

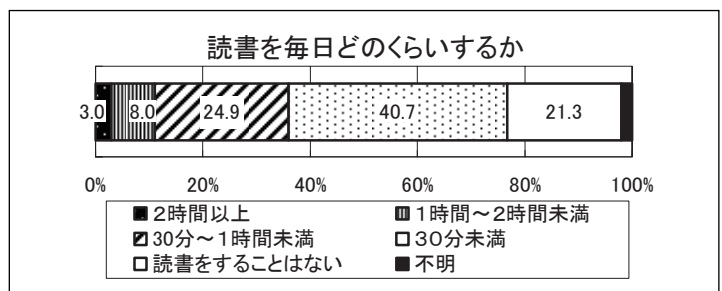
- 国語…「読書が好きだから」(34.7%) <昨年度より 0.1ポイントの増加>
- 社会…「世の中のできごとを知ることが好きだから」(39.6%) <昨年度より 1.0ポイントの増加>
- 算数…「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」(56.4%)<昨年度と同じ>
「コースに分かれた少人数の学習があるから」(48.6%) <昨年度より 1.5ポイントの増加>
- 理科…「観察や実験をした後に、しっかりまとめをする授業が多いから」(58.2%)
<昨年度より 1.5ポイントの増加>

(3) 生活面や行動面等について

① 読書量について

「読書をすることはない」と答えた児童の割合は 21.3%である。昨年度の割合は、23.4%であり、比較すると 2.1ポイントの減少となっている。

平均正答率との関連で見ると、昨年度は、1日に「1～2時間未満」の読書をする児童の平均正答率がどの教科についても最も高かったが、今年度も、ほぼ昨年度と同様の傾向である。

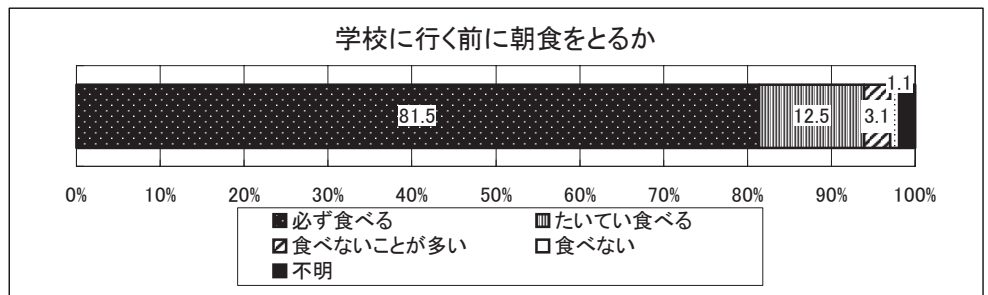


読書を毎日どのくらいするか?	平均正答率 (%)				
	国語	社会	算数	理科	問題解決能力等
2時間以上	80.0	86.9	83.4	80.3	77.5
1～2時間未満	80.0	87.2	84.2	80.2	78.4
30分～1時間未満	76.3	85.1	81.2	77.1	75.1
30分未満	71.2	81.7	76.4	73.2	70.6
読書をすることはない	64.7	76.8	69.9	68.1	64.5

② 朝食について

朝食を「必ず食べる」「たいてい食べる」と答えた児童の割合は94.0%であり、昨年度と比較すると0.3ポイントの減少となっている。

平均正答率との関連で見ると、どの教科等についても、朝食を「必ず食べる」と答えた児童の平均正答率が最も高く、昨年度と同様の傾向である。

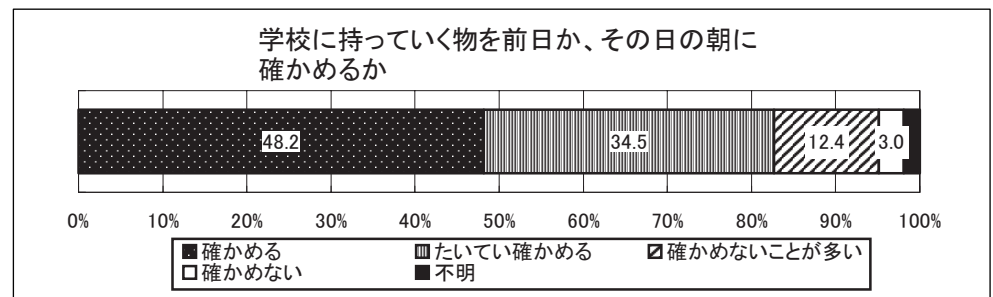


朝食は？	平均正答率 (%)									
	国語		社会		算数		理科		問題解決能力等	
必ず食べる	73.4	72.5	83.3	82.5	78.9	77.7	75.1	74.3	72.7	71.7
たいてい食べる	66.7		77.4		69.7		68.8		65.4	
食べないことが多い	62.8	62.4	74.0	73.4	64.2	63.6	65.5	65.2	61.5	60.8
食べない	61.3		71.5		61.9		64.4		58.8	

③ 学校へ持っていく物の準備について

前日、又は、その日の朝に学校に持っていく物を「確かめる」「たいてい確かめる」と答えた児童の割合は、82.7%であり、昨年度と同じである。

平均正答率との関連で見ると、学校に持っていく物を確かめる頻度が高い児童ほど平均正答率が高くなっており、昨年度と同様の傾向である。

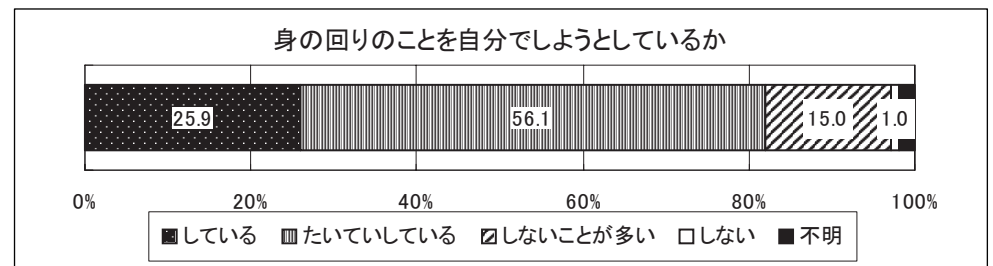


持ち物を確かめる？	平均正答率 (%)									
	国語		社会		算数		理科		問題解決能力等	
確かめる	74.7	73.3	84.3	83.2	80.1	78.5	75.6	74.7	73.7	72.5
たいてい確かめる	71.4		81.6		76.3		73.6		70.8	
確かめないことが多い	66.3	65.3	77.3	76.3	70.4	69.3	70.0	69.3	65.7	64.8
確かめない	61.5		72.1		65.0		66.2		60.7	

④ 身辺自立について

身の回りのことを自分で「している」「たいていしている」と答えた児童の割合は82.0%である。

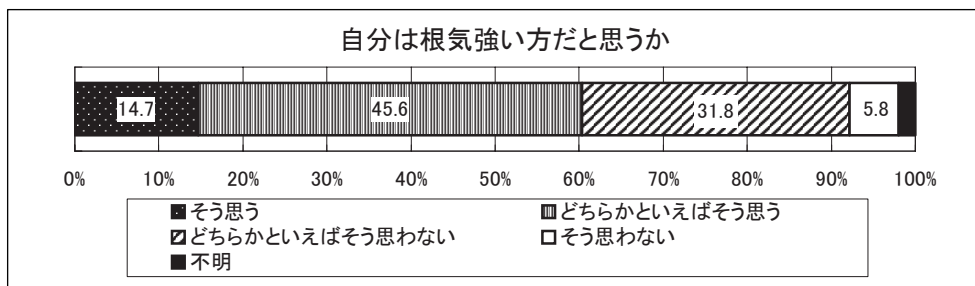
平均正答率との関連で見ると、どの教科等についても「している」「たいていしている」と答えた児童の平均正答率は、「しないことが多い」「まったく、又は、ほとんどしない」と答えた児童の平均正答率よりも高く、昨年度と同様の傾向である。



自分で身の回りのことをする？	平均正答率 (%)									
	国語		社会		算数		理科		問題解決能力等	
している	74.7	73.2	83.9	83.0	79.5	78.3	75.2	74.6	73.3	72.2
たいていしている	72.4		82.6		77.8		74.3		71.8	
しないことが多い	67.2	66.6	78.0	77.4	71.6	70.9	70.8	70.3	66.9	66.3
しない	57.4		68.5		60.0		63.2		57.1	

⑤ 根気強さについて

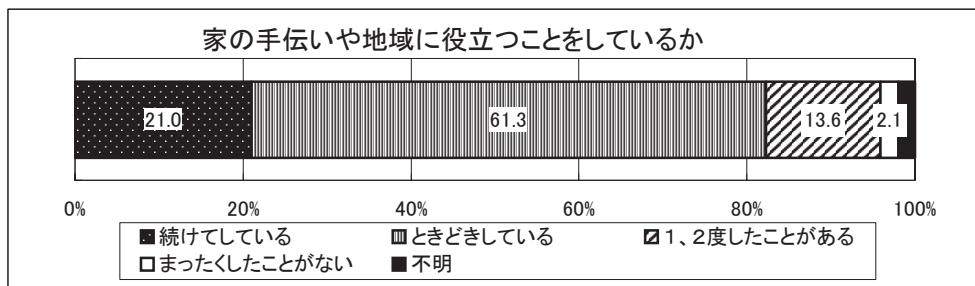
自分は根気強いほうだ
と思うかについて、「そ
う思う」「どちらかとい
えばそう思う」と答えた
児童の割合は60.3%で
ある。「そう思う」「ど
ちらかといえばそう思
う」と答えた児童の平均
正答率は、「そう思わな
い」「どちらかとい
えばそう思わない」と
答えた児童の平均正答
率より高く、昨年度と
同様の傾向である。



根気強い?	平均正答率 (%)									
	国語	社会	算数	理科	問題解決能力等					
そう思う	75.3	73.8	84.4	83.5	81.2	79.4	76.5	75.2	73.8	72.9
どちらかといえばそう思う	73.3		83.2		78.8		74.8		72.5	
どちらかといえばそう思わない	70.0	69.4	80.5	79.9	74.2	73.4	72.2	71.7	69.4	68.7
そう思わない	66.4		76.5		69.2		69.4		65.4	

⑥ 家の手伝いや地域に役
立つことについて

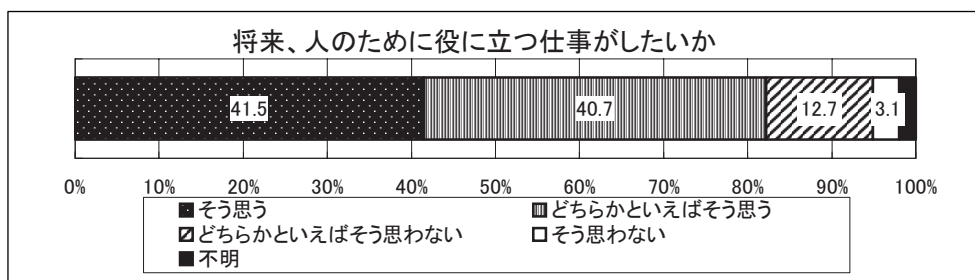
家の手伝いや地域に役
立つことを「続けてし
ている」「ときどきし
ている」と答えた児童の
割合は82.3%である。
「続けてしている」「
ときどきしている」と
答えた児童の平均正
答率は、「1、2
度したことがある」「
まったくしたことが
ない」と答えた児童の
平均正答率よりも高
く、昨年度と同様の
傾向である。



ボランティア活動	平均正答率 (%)									
	国語	社会	算数	理科	問題解決能力等					
続けてしている	72.0	72.7	82.0	82.8	76.7	77.8	73.3	74.4	71.0	72.1
ときどきしている	73.0		83.0		78.1		74.8		72.4	
1、2度したことがある	69.9	68.7	79.8	78.8	74.8	73.5	72.1	71.1	68.5	67.1
まったくしたことがない	61.1		71.7		65.0		64.4		58.5	

⑦ 将来について

将来、人のために役に
立つ仕事がしたいか
について、「そう思う」
「どちらかとい
えばそう思う」と
答えた児童の割合は
82.2%であり、昨
年度と同じである。
「そう思う」「ど
ちらかとい
えばそう
思う」と答えた児童の
平均正答率は、「そ
う思わな
い」「ど
ちらか
とい
えば
そ
う
思
わ
な
い」と答えた児童の
平均正答率よりも高
くなっており、昨年
度と同様の傾向で
ある。



人のために役立ちたい	平均正答率 (%)									
	国語	社会	算数	理科	問題解決能力等					
そう思う	74.8	73.1	84.1	83.0	79.9	78.2	76.0	74.7	73.5	72.2
どちらかといえばそう思う	71.3		81.8		76.4		73.3		70.9	
どちらかといえばそう思わない	68.0	67.1	78.6	77.7	72.3	71.4	70.6	69.9	67.5	66.3
そう思わない	63.8		73.8		67.5		67.0		61.5	

3 指導上の改善

(1) 授業改善への視点

本調査の結果から、確かな学力の向上を図るための指導上の改善点について提言する。

① 「分かる」「楽しい」授業の創造

本年度の調査の結果から、各教科で「楽しい」「少し楽しい」と答えた児童の割合は 78.6% であり、その平均正答率は、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童の平均正答率よりも、四教科平均で 7.6 ポイント高くなっている。このことは昨年度と同様の傾向である。

また、授業の内容が分かる程度についての質問に対して、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた児童の割合は 84.5% であり、その平均正答率は、「分からない」「どちらかといえば分からない」と答えた児童の平均正答率よりも、四教科平均で 15.2 ポイント高くなっている。このことから、学習について「楽しい」「分かる」と実感している児童は、学習内容をよく身に付けているということが分かる。このことは、逆にいえば、学習内容をよく身に付けていると、「楽しい」「分かる」というようになるとも考えられる。

以上のことから、児童が学習の内容を身に付けるために、「楽しい」「分かる」というような実感がもてる授業を創造していくことが求められている。

② 児童の主体的な活動を取り入れた授業の充実

本年度の調査の結果から、すべての教科において内容が分かる要因として、「自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業」が回答率で上位に挙げられている。昨年度と同様に、各教科の特性を十分に生かしながら児童の主体的な学習を進めていくことが重要である。

③ 丁寧な指導の充実

各教科の内容が分かる要因の一つとして、「先生の教え方がていねいだから」という回答が各教科とも 30% を超えている。児童が学習の内容を身に付けるためには、児童の主体的な学習と併せて、教師の丁寧な指導が重要である。

④ 中学校との連携を図った指導の改善

授業が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と感じている児童の割合を中学校の結果と比較すると、国語では 16.4 ポイント、社会では 15.0 ポイント、算数では 22.3 ポイント、理科では 26.5 ポイント、中学校の結果の方が下回っている。そのため、小学校段階において確実に学習内容の定着を図るとともに、中学校との連携をより深めながら学習内容や指導方法の系統性や継続性に配慮した指導を充実させることも、学力向上を図る上で大切な視点である。

(2) 生活や行動面での指導の充実

本年度の調査の結果と昨年度の調査結果から、基本的な生活習慣の一層の充実、根気強さの育成、社会の一員としての自覚などが、学習を支える大切な基盤になることが明らかである。

今後も学校全体の取組として、意図的・計画的な指導を行っていくことと併せて、積極的に家庭や地域との連携を図り、理解と協力を得ながら基本的な生活習慣の充実、根気強さの育成、社会の一員としての自覚などを促していくことが求められる。

さらに、「家の手伝い」や「地域に役立つこと」を積極的に行おうとするような、集団の一員としての自覚を高める指導を充実させることが重要である。学校集団の一員としてだけでなく、地域社会の一員としての自覚を高めることは、児童が学習したことを家庭や地域での生活に生かそうとする態度をはぐくむことにつながり、それによって確かな学力の定着を一層図ることができると考えられる。

Ⅱ 中学校における学習に関する意識調査の結果について

1 調査の概要

本意識調査は、次の三つの事項について生徒に質問した。

(1) 各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の授業について

・各教科の授業の楽しさの程度について ・各教科の内容の理解の程度について

(2) 各教科の内容が理解できるための要因について

上記(1)で、「授業がよく分かる」、又は「どちらかといえば分かる」と答えた生徒を対象に質問した。

・学習方法について ・教員の姿勢に関して ・学習者の姿勢に関して ・その他

(3) 生活や行動等について

・読書の時間量 ・生活面における自立の程度 ・社会貢献への意識や行動 など

2 調査結果の概要

(1) 各教科の授業について

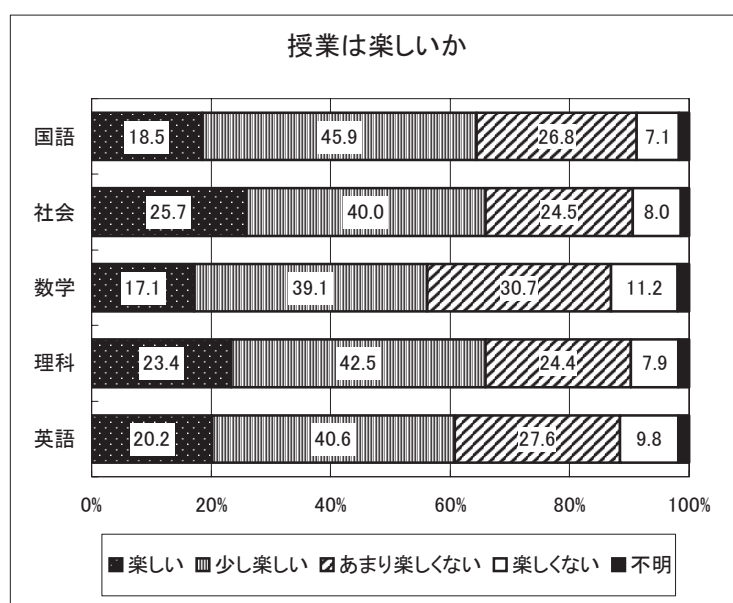
各教科に関して「授業は楽しいか」について質問した。

授業が「楽しい」「少し楽しい」と答えた生徒の割合は、理科の授業が65.9%で、5教科の中で最も高い。

また、昨年度と比べると、国語で0.1ポイント、社会で2.0ポイント、数学で0.2ポイント、英語で1.1ポイント増加し、理科で0.7ポイント減少している。

一方、「楽しくない」と答えた生徒の割合は年々減少しており、調査初年度の平成15年度と比べると、国語が3.1ポイント、社会が2.1ポイント、数学が3.5ポイント、理科が3.1ポイント、英語3.2ポイント減少している。

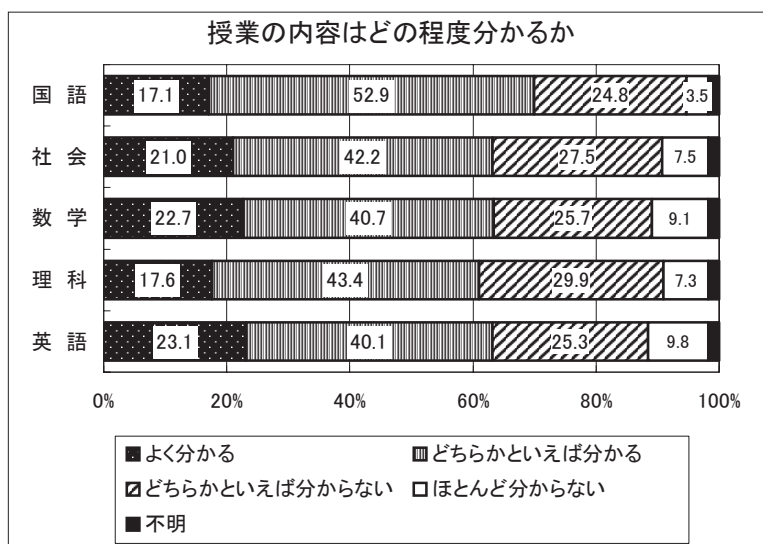
下の表は、各教科の学力定着状況調査の平均正答率との関連を示したものである。昨年度と同様、各教科とも、「楽しい」「少し楽しい」と答えた生徒の平均正答率は、「楽しくない」「あまり楽しくない」と答えた生徒の平均正答率よりも高くなっている。特に数学は、その差が8.5ポイント、また、英語はその差が7.8ポイントと、他の教科よりやや大きくなっている。



授業は？	平均正答率 (%)									
	国語		社会		数学		理科		英語	
楽しい	73.2	70.9	75.5	73.0	77.9	74.2	73.9	71.1	84.3	81.5
少し楽しい	70.0		71.4		72.5		69.5		80.2	
あまり楽しくない	68.1	67.4	67.5	66.4	67.4	65.7	65.8	64.7	75.4	73.7
楽しくない	65.0		63.1		60.8		61.3		69.1	

次に、「授業の内容はどの程度分かるか」については、授業内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた生徒の割合が、昨年度と同様に、国語が70.0%で他の教科よりも高くなっている。また、その割合を昨年度と比べると、国語が0.6ポイント、数学が0.2ポイント、英語が1.1ポイント増加している。一方、社会が0.2ポイント、理科が0.8ポイント減少している。

「よく分かる」と答えた生徒の割合は、英語、数学、社会、理科、国語の順に高い。「ほとんど分からない」と答えた生徒の割合は、調査初年度の平成15年度より減少しており、初めて英語が9.8%と10%を下回った。しかし、英語と数学は、他の教科よりも「ほとんど分からない」と答えた生徒の割合が高くなっており、過去3年間と同様の傾向である。



下の表は、各教科の学力定着状況調査の平均正答率との関連を示したものである。

昨年度と同様、各教科とも、「よく分かる」「どちらかといえば分かる」と答えた生徒の平均正答率は、「ほとんど分からない」「どちらかといえば分からない」と答えた生徒の平均正答率よりも高くなっている。また、その差は、数学が19.3ポイント、英語が17.5ポイントで、他の教科よりやや大きくなっており、過去3年間と同様の傾向である。

授業の内容は？	平均正答率 (%)									
	国語		社会		数学		理科		英語	
よく分かる	78.3	73.0	80.4	75.4	83.9	77.4	78.7	73.3	89.8	84.8
どちらかといえば分かる	71.3		72.8		73.8		71.1		81.9	
どちらかといえば分からない	62.6	61.6	64.4	62.6	61.7	58.1	63.3	62.0	70.6	67.3
ほとんど分からない	54.4		56.2		47.9		56.4		58.6	

(2) 各教科の内容が分かるための要因について

各教科について「分かる要因」としてあげたもののうち、生徒の回答率が10%を超えたものを整理すると次のようになる。(複数回答、数字は回答率)

国語	先生の教え方が丁寧	38.1%	数学	塾や家庭で教えてもらっている	30.7%
	読書が好き	20.4%		先生の教え方が丁寧	29.6%
	自分で調べたり、考えたりするなどの授業	19.4%		数学の問題はいろいろな解き方がある	26.3%
	塾や家庭で教えてもらっている	14.3%		授業中に繰り返し学習する時間がある	17.7%
	授業中に繰り返し学習する時間がある	12.4%		分からないときには学校の先生に聞く	12.5%
	自由に考えを発表し合い、考えを深める授業が多い	10.6%		理解の程度などによるコース別の授業がある	12.2%
	先生が好き	10.5%		理科	観察・実験をした後に、しっかりまとめをする授業
社会	先生の教え方が丁寧	35.7%	自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業		32.2%
	世の中のできごとを知ることが好き	25.9%	先生の教え方が丁寧		28.1%
	自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業	16.3%	分からないときには学校の先生に聞く	10.2%	
	授業中に繰り返し学習する時間がある	12.6%	英語	塾や家庭で教えてもらっている	31.7%
	先生が好き	10.8%		授業でALTが教えてくれる	27.8%
分からないときには自分で調べる	10.5%	先生の教え方が丁寧		26.3%	
		授業中に繰り返し学習する時間がある		17.0%	
		自分で予習や復習をしている		12.4%	
		自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業		12.2%	
		分からないときには学校の先生に聞く	11.0%		
		分からないときには自分で調べる	10.6%		

どの教科においても、比較的多く選ばれている要因として、次のものがあげられる。

- ・教師の姿勢に関するもの … 「先生の教え方が丁寧」
- ・学習方法等に関するもの … 「自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業」
「授業中に繰り返し学習する時間のある授業」

また、教科別に見ると、次のようなものが比較的多く要因として選ばれている。

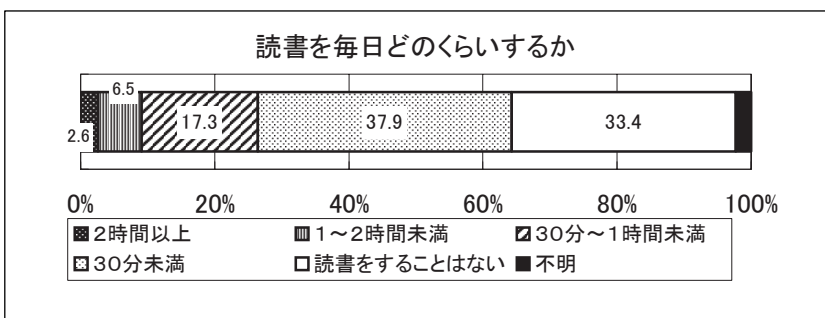
- ・国語 … 「読書が好き」だから (20.4%)
- ・社会 … 「世の中のできごとを知ることが好き」だから (25.9%)
- ・数学 … 「塾や家庭で教えてもらっている」から (30.7%)
「数学の問題はいろいろな解き方がある」から (26.3%)
- ・理科 … 「観察・実験をした後に、しっかりまとめをする授業」だから (35.6%)
- ・英語 … 「塾や家庭で教えてもらっている」から (31.7%)
「授業でALTが教えてくれる」から (27.8%)
「自分で予習や復習をしている」から (12.4%)

(3) 生活面や行動面等について

① 読書量について

「読書をすることはない」と答えた生徒の割合は33.4%、「毎日30分未満」と答えた生徒の割合は37.9%で、昨年度よりも合計で3.2ポイント減少している。また、毎日少なくとも30分以上読書する生徒の割合は、全体の約26.4%であり、昨年度よりも1.3ポイント増加している。

また、平均正答率との関連で見ると、1日に「1時間～2時間未満」の読書をする生徒の平均正答率が、すべての教科等で高くなっている。

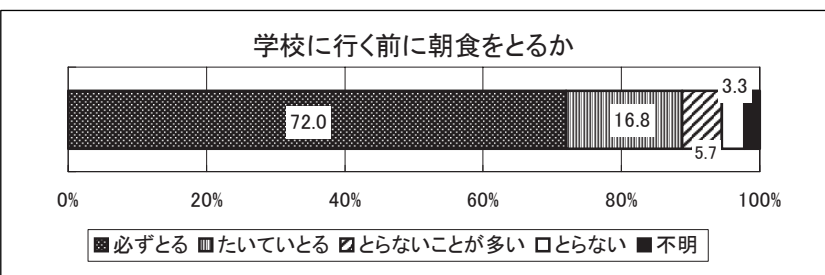


読書を毎日どのくらいするか？	平均正答率 (%)					
	国語	社会	数学	理科	英語	問題解決能力等
2時間以上	73.2	73.6	70.0	71.2	78.0	76.4
1～2時間未満	74.6	75.3	72.8	72.8	80.9	78.1
30分～1時間未満	73.3	74.4	72.8	71.8	80.8	77.0
30分未満	70.9	72.1	72.3	70.1	80.2	75.2
読書をすることはない	65.5	66.7	67.3	65.5	75.4	69.9

② 朝食について

「必ずとる」と答えた生徒と「たいていとる」と答えた生徒の割合を合わせると、88.8%であり、昨年度よりも合計で1.0ポイント増加している。平均

正答率との関連で見ると、朝食を「必ずとる」と答えた生徒の平均正答率が、どの教科等においても最も高く、過去3年間と同様の傾向である。

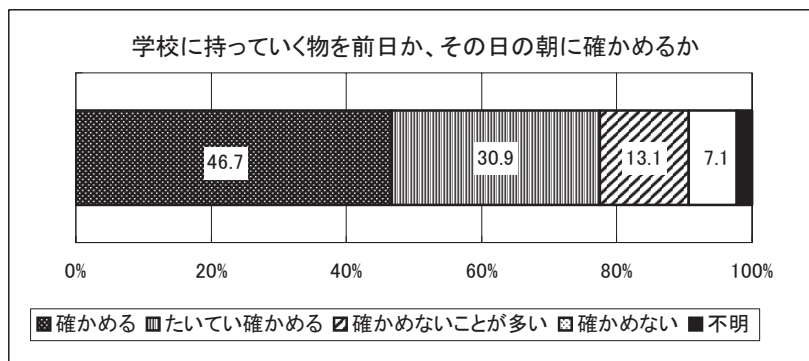


朝食はとるか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
必ずとる	71.9	70.7	73.4	71.9	73.6	71.9	71.2	69.9	81.1	79.8	76.0	74.8
たいていとる	65.6		65.7		64.8		64.3		73.8		69.6	
とらないことが多い	61.1	60.7	61.2	61.1	58.6	57.8	60.9	60.4	68.4	67.7	65.8	65.4
とらない	60.1		60.7		56.5		59.6		66.4		64.8	

③ 学校へ持って行く物の準備について

学校へ持っていく物を前日、又は、その日の朝に確かめるかという質問に対して、「確かめる」「たいてい確かめる」と答えた生徒の割合の合計は77.6%で、昨年度よりも1.3ポイント減少している。

また、どの教科等においても、学校へ持っていく物を確かめる頻度の高い生徒ほど、平均正答率が高くなっており、昨年度、一昨年度と同様の傾向である。

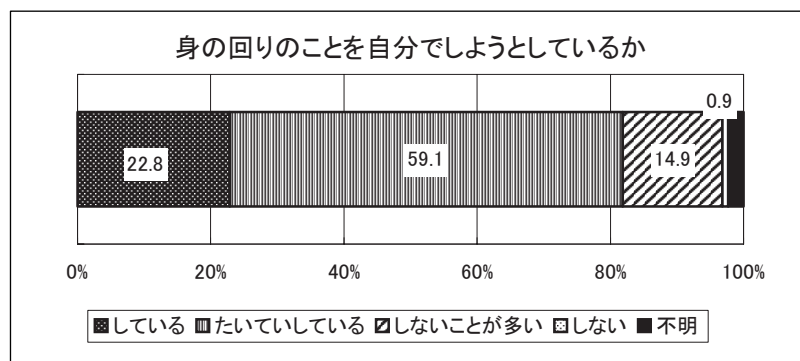


持ち物を確かめるか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
確かめる	72.7	71.4	73.7	72.4	74.1	72.4	71.7	70.5	82.0	80.4	76.6	75.5
たいてい確かめる	69.3		70.5		69.8		68.7		78.0		73.7	
確かめないことが多い	65.3	63.9	66.4	65.1	64.9	63.8	64.6	63.5	73.4	72.0	69.5	68.1
確かめない	61.4		62.7		61.7		61.5		69.3		65.3	

④ 身辺自立について

身の回りのことを自分でしようとしているかという質問に対して、「している」「たいていしている」と答えた生徒の割合は、合計で昨年度よりも1.6ポイント減少している。

また、どの教科等においても、自分でしようとする頻度の高い生徒ほど、平均正答率が高くなっており、過去3年間と同様の傾向である。

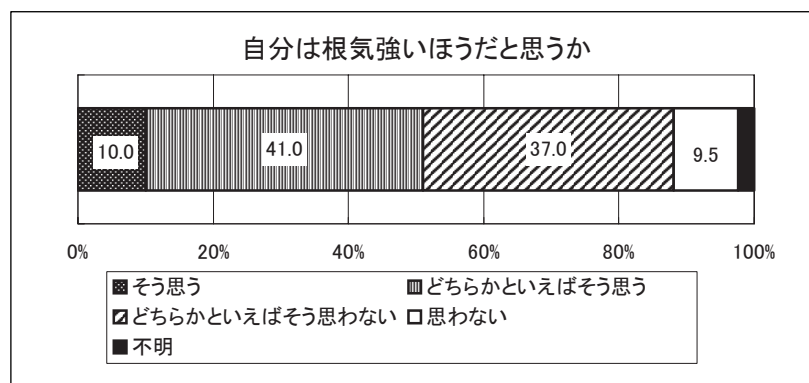


自分で身の回りのことをするか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
している	71.4	70.6	72.0	71.6	71.9	71.4	69.9	69.6	80.6	79.6	75.1	74.7
たいていしている	70.2		71.4		71.2		69.6		79.2		74.6	
しないことが多い	66.7	66.1	68.2	67.6	67.4	66.7	66.6	66.2	74.6	74.0	70.6	69.9
しない	56.6		59.1		56.8		58.4		63.5		57.3	

⑤ 根気強さについて

自分自身を根気強いほうだと思うかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合の合計は51.0%で、昨年度と比べて、0.3ポイント減少している。

また、どの教科等において

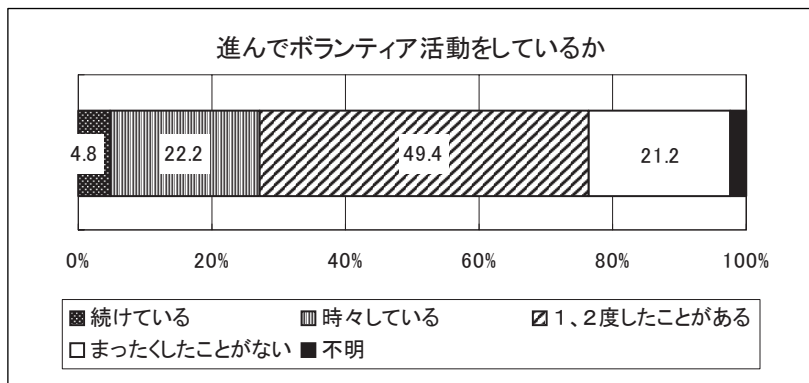


も、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の平均正答率は、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた生徒の平均正答率より高くなっており、過去3年間と同様の傾向である。

根気強い方だと思うか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
そう思う	72.4	71.8	73.7	73.0	74.8	73.5	71.6	71.0	82.3	81.4	76.3	76.1
どちらかといえばそう思う	71.7		72.8		73.2		70.8		81.2		76.1	
どちらかといえばそう思わない	68.0	67.7	69.0	68.7	68.1	67.5	67.3	67.0	76.4	75.7	72.1	71.6
思わない	66.4		67.2		65.3		65.9		73.1		69.5	

⑥ ボランティア活動について

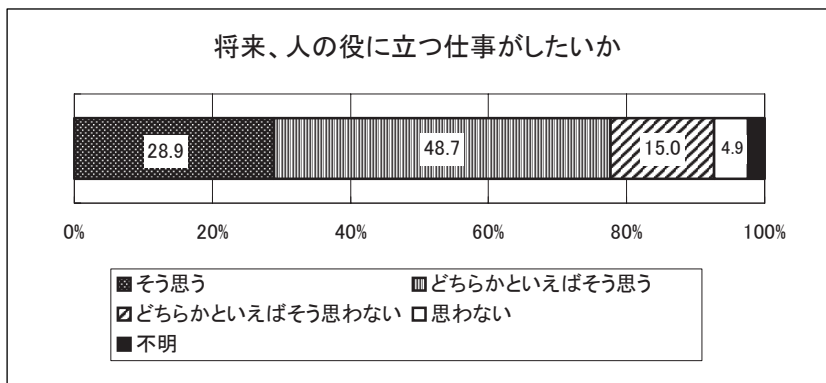
進んでボランティア活動をしているかという質問に対して、「続けてしている」「時々している」と答えた生徒の割合の合計は27.0%で、昨年度よりも0.2ポイント増加している。また、どの教科等においても、ボランティア活動を「続けてしている」「時々している」と答えた生徒の平均正答率は高くなっており、過去3年間と同様の傾向である。



ボランティア活動をしているか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
続けてしている	69.5	71.2	71.3	72.5	70.9	72.4	69.4	70.5	79.3	80.3	74.1	75.7
時々している	71.6		72.8		72.7		70.7		80.5		76.1	
1, 2度したことがある	70.9	69.3	71.8	70.3	71.6	70.0	69.9	68.5	79.7	78.0	75.3	73.3
したことがない	65.7		67.0		66.1		65.4		74.1		68.6	

⑦ 将来について

将来、人の役に立つ仕事がしたいかという質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合は77.6%で、合計で昨年度と同じポイントである。また、どの教科等においても、人の役に立つ仕事がしたいという思いが強い生徒ほど、平均正答率が高くなっており、昨年度、一昨年度と同様の傾向である。



人の役に立つ仕事がしたいか？	平均正答率 (%)											
	国語		社会		数学		理科		英語		問題解決能力等	
そう思う	71.9	70.8	73.0	71.9	73.1	71.9	70.6	70.0	81.3	79.9	75.7	75.1
どちらかといえばそう思う	70.2		71.3		71.2		69.5		79.1		74.7	
どちらかといえばそう思わない	66.3	66.0	67.5	67.1	66.1	65.8	66.0	65.7	74.3	73.8	70.2	69.6
思わない	65.1		65.8		65.0		64.8		72.0		67.6	

3 指導上の改善

(1) 授業改善の視点

本調査の結果から、確かな学力の向上を図るための指導上の改善点について提言する。

① 楽しい授業、分かる授業の実現

過去3年間と同様に、各教科とも、「楽しい」「少し楽しい」と答えた生徒の平均正答率は、「楽しくない」「あまり楽しくない」と答えた生徒の平均正答率よりも高くなっている。このことから、授業を楽しみと思える生徒は学習意欲が高まり、その結果として、学習内容が確実に身に付いていくことが明らかである。また、授業を「楽しくない」と答えた生徒の割合は、どの教科においてもこれまでの調査の中で最も低かった。

今後も、各教科において、関心や意欲に課題のある生徒に対して、どのように指導の改善・充実を図っていくかが重要となる。

生徒が、「分かった」「できた」という達成感や充実感を実感できる授業は、「楽しい」授業であり、生徒の学習活動への意欲を喚起する。その反対に、達成感や満足感を実感できない授業は、生徒の学習意欲を減少させる。

生徒一人一人の多様な課題を生かす個に応じた指導の充実、そして「楽しい授業」「分かる授業」を実現するための学習活動の工夫・改善に不断に取り組んでいく必要がある。

例えば、生徒が自分の学力の状況について肯定的に自己評価ができ、次の目標設定ができるような「小テストや自己評価表の活用」や、教科の学習において、生徒が「分かってよかった」「できてよかった」という実感をえられるような「教科の学習の意味や価値、次の学習へのつながりに気付かせるような指導の充実」などにより、学びへの動機付けを行っていくことも重要である。

② 学習活動と学習指導の工夫・改善

本年度の調査の結果では、授業が「よく分かる」、又は「どちらかといえば分かる」と回答した要因として、「先生の教え方が丁寧」が過去3年間と同様に、どの教科でも上位に挙げられている。

生徒一人一人の学び方や理解の仕方の多様性、学習上の様々なつまずきの状態を的確に把握し、それぞれの課題に対応したきめ細かな指導の充実を図ることが極めて重要である。

言うまでもなく、生徒の学力向上には、生徒一人一人の学習状況を的確に把握し判断する教師の力量や、それをもとにして自らの指導を工夫・改善する指導力など、教師の授業力の向上が不可欠である。少人数学習集団による習熟度別指導においても、このような授業力が基盤となる。

また、「自分で調べたり、考えたり、体験したりする授業」が上位に挙げられている。このことから調査や体験・観察・実験などによる実感を伴った理解を重視した学習活動により、生徒一人一人が楽しく分かる授業をつくり上げていくことが重要である。

さらに、「授業中に繰り返し学習する時間がある」も多くの教科で挙げられている。繰り返し学習する時間を確保することで、生徒は精神的なゆとりをもち、自分の学習の定着を確実に図るとともに、学習の定着の程度をその場で確認できる。このような学習を通して、生徒は学習活動の喜びや楽しさを実感し、この実感が学習意欲を更に高めることにつながっていく。

(2) 生徒の生活面等の改善の視点

本年度も含めた4年間の調査の結果から、基本的な生活習慣の確立や身辺自立が、学習を支える重要な土台となることは明らかである。

今後も引き続き学校全体の取組と並行して、積極的に家庭の理解と協力を得ながら、家庭における生活習慣の改善を促していく必要がある。また、社会貢献の精神を育成する点についても、地域の人材や施設を活用して、生徒がどのように生きるかという目的意識をもち、自分の生き方にかかわって学習をとらえ、取り組んでいけるように指導の充実を図っていくことが極めて重要である。